

「友松会だより」

新春の集い（報告）

平成 31 年 1 月 26 日(土) 会場 ローズホテル横浜

= 新春のつどい = 次第

- | | |
|--------------|-------------------------|
| 1 開会のことば | 9 若手会員紹介、激励のことば |
| 2 新年のあいさつ 会長 | 10 31 年 3 月退職予定者紹介 |
| 3 お祝いのことば | 11 支部(支部会員)紹介 |
| 4 来賓(祝電)紹介 | 12 おとしだま抽選会 |
| 5 斉唱 一月一日 | 13 31 年度友松会総会の案内 西湘ブロック |
| 6 鏡開き | 14 師範学校校歌、学生歌(みはるかす) |
| 7 乾杯 | 15 万歳三唱 |
| 8 来賓挨拶 | 16 閉会のことば |

〈懇 談〉

新年のあいさつ(芦川会長) (要旨)

新年あけましておめでとうございます。本日は、横浜国立大学学長長谷部勇一様をはじめ多数の方々のご臨席をいただきありがとうございます。

友松会創立 130 周年記念総会には、320 名を越す会員の出席をいただいて盛大に祝えたことは嬉しいことでした。ご来賓として、県教育長様、学長様、秦野市長様はじめ中地区ブロック内の各市教育長様にもご臨席いただき祝辞を頂戴しました。記念講演につづき世代を超えた会員同士の交流が行われ 130 周年記念にふさわしい会となりました。

10 月の横国 Day には、1000 名を超える卒業生が母校を訪れ、交友を深めました。友松会は、「豊かな教育を考える会」を創立 130 周年記念事業として開催し、松沢賞受賞者が実践提案し研究協議を行いました。

今年、我が国は新天皇誕生、改元という節目の年を迎えます。また、少子高齢化の波は非常な勢いで進んでおり、教育界もその対応を余儀なくされています。教育に携わる友松会としては、これらの問題に果敢に取り組み、有為な人材育成を意識して活動していきたいと考えています。

そのために、今年も、「深まろう 高まろう つながる会員 つながる大学」をスローガンに掲げ、さらに「行動する友松会」をテーマに「学生会員支援」「大学とのさらなる連携」「支部活動の活性化」に重点を置き、活動していきたいと思えます。

年頭に当たっての思いを述べましたが、何よりも心強いことは会員の皆様の温かいご理解とご支援です。さらなるご協力・ご支援をお願いいたします。



お祝いのことば ご来賓代表

横浜国立大学学長長谷部勇一様、名教自然会会長井上誠一様より来賓代表祝辞を頂戴しました。

「平成の時代は、スポーツ、ノーベル賞等での活躍が目立つが、本学にも世界的に活躍している先生がいる。」「本学は、キャンパスが一つという利点がある。」「教育学部では、東京学芸大学との連携による博士課程があり、毎年10人ほどが博士の学位を取っている。」「学部間連携により、特別支援教育の分野で教育学部と工学部の先生が支援ロボットの研究・開発、またAIでは、小学校の作文の自動採点の研究が進められている。」「国際性では、附属小学校で、フィンランドとの英語による交流等、グローバル化対応を推進。」「優秀な教員の養成を目指したい。」と、大学の現状と取り組みを紹介されました。また、井上様からは、「本学では、県内での地域連携に努めているが、特に友松会の会員は教育活動を担っているので、期待される。」「同窓会の目的には、大学支援、学生支援もある。財政面では、学生の同窓会入会が増えたので、同窓会連合として、大学支援に力を入れたい。」と同窓会連携による大学支援についても話されました。



《懇親会》

ご来賓の横浜国立大学教育学部長・友松会名誉会長杉山久仁子様、参議院議員那谷屋正義様のご挨拶。今年は、NHK大河ドラマの主人公金栗四三氏が、東京高等師範学校卒業後、神奈川師範学校の教師として一年ほど教鞭をとられたことから、席の名を「金、栗、四、三、世、界、新、記、録、偉、業、樹、立、韋、駄、天」とし、好評でした。若手会員紹介、支部紹介で盛り上がり、お年玉抽選会は、学長賞(長谷部学長筆ラベルの酒「横浜国大」)、学部長賞、会長賞等に一喜一憂。歓談、次期総会案内、恒例の校歌、学生歌の合唱、万歳三唱で閉会。創立130年から新たな一歩となる記念すべき年の新春の集いは、138名の会員の出席で盛会となりました。





若手会員の紹介



退職者あいさつ



支部紹介



おとしだま抽選会
学長賞の日本酒ラベルは
学長の筆「横浜国大」



神奈川師範学校校歌をうたう



学生歌をうたう